

(みよし市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 8校、中学校 4校、		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1人	
		地域学校協働活動推進員	2人	
		統括コーディネーター	0人	
		地域コーディネーター	0人	
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小 0校	中 1校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 0校	中 1校	



(活動の実際)

手始めのモデル事業として、市役所関係各課や大学等を重点とした連携を行った。次第に地域やPTA、企業などにも広がっている。その一部は次のようである。

- ① 総合的な学習「SDGsを生かした未来のまちづくり」の授業で、東海学園大学との連携。
- ② 市役所協働推進課と連携して、「市民憲章」の動画や紙芝居作成による啓発活動協力。
- ③ 総合的な学習「わが街の防災」で学習内容を冊子にし、公民館や市役所など関係機関に寄贈。
- ④ 環境課や地域住民と連携した、ごみ分別促進アプリ「さんアール」や分別の啓発活動。
- ⑤ 老人クラブやPTA、地元企業と連携した、継続的な除草等環境整備活動。
- ⑥ 生徒会主体で、PTAや地域と連携した「地域貢献活動（環境整備活動）」。
- ⑦ その他、地元講師を招いた、英会話、短歌、栽培活動などの授業連携。等々

<具体的な取組>

- ・ 県内外の動向を調査し、本市へ導入する必要性を検証するねらいで、取組をスタート。
- ・ 先進地区である津島市や、豊田市はじめ県内市町村に視察に行ったり情報をいただいたりして、本市に合った取り組みの仕方を模索。
- ・ 市役所関係課と連携を模索。
- ・ 全小中学校長、区長会役員、民生児童委員ら地元有識者、幼保高校大学関係者、企業、老人会、スポーツクラブ関係者、児童クラブ、スポーツ団体関係者、ボランティア団体等と懇談。
- ・ 三好中学校をモデル校とし、従来の学校評議員会制度から、一定の権限をもたせた「学校運営協議会（＝みよし版コミュニティスクール）」を立ち上げ、「地域学校協働活動推進員（＝コーディネーター）」の候補を決定。学校や地域の思いをつなぐところから実践を計画、実施。

(コロナ禍での苦労・工夫)

- ・ グループメールやZOOM会議などに関係機関や地域住民を巻き込む努力を行った。こういう時だからこそ学校と地域がつながろうという意欲がもてるような働きかけを行って、連携を増やしている。

(◎成果 ●課題)

- ◎ 学校と、市役所関係各課、地域との連携強化のヒントがたくさん見えた。生徒が主体的に街づくりに参画したいという意欲にもつながったとの声が多くあった。行政に依存し過ぎない取組の重要性も広まりつつある。地域有識者や行政への、本構想に対する認知度も広まっている。
- ◎ 地域やPTAが学校と関わるメリットを感じ始めており、そのモデル校の取組が、他の学校にも参考になっている。次年度は3校程度取組を始める予定で、数年後には全小中学校で実施できる目標が見えた。
- コーディネーターの役割が多岐に渡る。継続的な研修や情報共有で、持続につなげる支援が課題である。

(関係者の声)

- ・ 長年懸案であった市民憲章の啓発が、中学校の総合的な学習で作成した動画や紙芝居のおかげで、市民への認知度が大きく広がった。生徒の発想を活かすことは今後ますます重要だと感じた。(市役所職員)
- ・ 熱い中、生徒さんと一緒に除草作業がこんなに楽しくすがすがしいと知りうれしかった。役に立てることがあれば、学校にいつでも協力したい。(地元老人会の参加者)
- ・ 生徒が、学んだことを伝えたい、という意欲が、個々の学びを深めるいい機会になっている。(教員)